

# “Heart to Heart”

心から心へ わかちあう あたたかさ

第10巻 第2号 (No.30)

発行日 平成27年12月2日

## 複眼的な視点を持って支援を

武蔵野東教育センター所長 計野浩一郎

### 目次:

複眼的な視点を持って支援を 1

療育プログラムのようす 2・3

コラム：自閉症と「こころ」への気づき 4

ファミリーデイ2015 4

教育センターからのご案内 4

本年も残り少なくなってきました。月日の経つのがはやく感じられる昨今ですが、保護者の皆様にとってこの一年間を振り返ってみた時に、子どもたちの変化、成長はそれぞれに大きかったのではないかと思います。

少し前になりますが、あるテレビのバラエティー番組だったと思いますが、バスケットの練習で二組がドリブルをしながらボールをパスし合う1分程のビデオを見せる。「パスされた回数を答えてもらいますので良く見ていてください。」と声をかけてからビデオを始めます。そして「何回パスしたか。」を問うと、ほとんどの人が「〇回」と正解するのです。しかし「何か変なものが見えませんでしたか。」と聞かれた時に、答えられた人は2割に満たなかった。「変なもの」というのは、ゴリラの着ぐるみがコートの中を歩いていた。パスしている間、ずっと動いているのにボールに集中して見えていない。

私たち支援者もそういうところがあって、目の前で見えているのに見えていない。自分の見たいものだけを見てしまうということがよくあるように思います。発達障害の子どもたちは表面的には不適切な行動が見えやすいため、その点や苦手なところのみに課題を定めて、そこだけを着目して支援する。そのような指導技術・技法に頼って支援をしてしまうことが、今日的なものだと思ってしまう傾向が世間的に見られます。

確かにその部分だけを強化していくのですから、表面的な部分に関しては変化が見られるのも事実です。一つの視点のみを注視して他の部分は見えているのに見えていない、自分の見たいものだけ見てしまうようなことが多

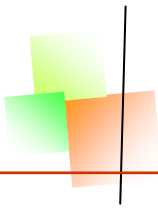
くの場面で見られます。子どもの心や環境との相互作用、さらに子どもの全体的な発達を複眼的に見ずに部分だけになってしまっていることが、子どもの成長発達にとって本来の支援として健全な姿と言えるのか疑問に感じています。

支援ということばの奥行きには深いものがあります。創業者北原キヨの言葉の中にも「私の自閉児に対する教育治療は、自然の原理にのっとった、ごくあたり前の教育方法です。叱るべき時に叱り、ほめるべき時にほめる一当園においてはこれも、価値基準は健康な子どもに対するものとまったく変わりありません。」とあるように、表面上の本人の好き嫌いを尊重して見守るのは武蔵野東の教育ではありません。

一人の子どもをみんなで成長させる視点を持って、人との関係を通して本人の全体的な成長発達を促していきます。そのために、場の状況、保護者の方々の思いなどを考え合わせ、その子の乗り越えられそうな負荷を与え、必要に応じて手助けをしていきます。そうして一つのことを乗り越えられた子どもの顔は清々しく、人間本来の希望と喜びの表情そのものに輝きます。今年も子どもたちが自分の限界を打ち破っていくときの、誇らしげな喜びの笑顔にたくさん出会えた一年でありました。

これからも複眼的な視点を大切にするとともに「一人の子をみんなで」ということばを合言葉に、保護者の方々のご協力のもと、子どもたちの誇らしげな笑顔にもっともっと出会えるように、日々の教育的支援を重ねていきます。良い年をお迎えください。





## 療育プログラムのようす 【各教室・言語・ラーニングプログラムの様子】

**幼児絵画造形教室** 11月のテーマは『絵の具』。用具の名称から始め、使いやすい「置き場所」、パレット・バケツ等の「使い方」、終わった後の「片付け」も覚ええました。絵の具の魅力は何と



なにいろにしようかな～

いっても色と色を混ぜて新しい色がつくれること。偶然にできた新しい色にびっくりしたり、「〇〇色をつくりたい」とまるで実験をするように試したり、色が混ざり合う不思議を体験していました。子どもたちの好奇心を引き出し、興味を広げるきっかけになったと思います。(吉野)

**言語プログラム** 「いろいろ質問」ゲームを行っています。裏返しに重ねた絵カードを1枚取り表にして相手に見せながら「どこですか?」「何ですか?」「だれですか?」「いつですか?」「何色ですか?」と絵に合わせた質問をします。答えを聞いた後に「当たりです」「違います」などと返答するため、相手の言葉を聞きとる力も養うことができます。生活の中でも物事に合わせて質問ができるように取り組んでいます。(計野ち)



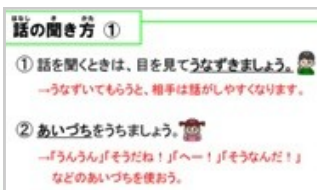
どんな質問をすればよいか?

**体育教室** 小学5・6年生は鉄棒に取り組んでいます。子どもたちには、「痛いから」「怖いから」と残念ながらあまり人気のない種目です。今年度も「自分の体を支える」「逆さま感覚に慣れる」の二つを大きな目標にしています。つばめの姿勢で横に移動する課題では、鉄棒にテープを貼りつけてレベル設定することで、子どもたちはモチベーションを上げて頑張っています。(鈴木)



つばめの横移動

**SST教室** 小5・6年は、二人組になって会話をする時間を設けています。会話の内容は自由ですが、「自分の好きなことだけでなく、みんなが分かることを話題にする」「相手の話を聞いたら、あいづちをうつ」などを重要なポイントとしています。話すときにお互いに紙コップを重ねていき、紙コップの塔を高くする(=会話が長く続く)ことを目標にして、取り組んでいます。(大澤)



話の聴き方(うなずき、あいづち)

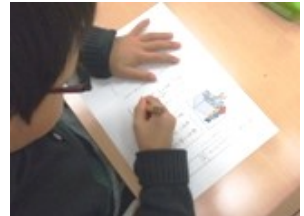
**ダンス教室** タンバリンをたたきながらステップを踏む課題に取り組みました。初めは足の動作に集中するあまり、タンバリンのリズムがなかなか整わず苦労しましたが、繰り返しの練習で、音が一つにそろうようになり皆が一体感を感じることのできる楽しいレッスンとなりました。現在は、1月23日の発表会に向けて練習を重ねています。応援をよろしくお願いいたします。(新堂)



タンバリンを持って

### ラーニングプログラム

文章を読んで「いつ・だれ・どこ・どうした」の質問に答える練習をしています。理解の仕方は様々だと思いますが、まずは「だれ」を見つけることから始まり、「どうした」、そして「どこ」や「いつ」へと進めていきます。繰り返しの練習していくと、子ども達の顔も自信を持った表情に変わり「できました!」の声までも大きな声に。これからも繰り返しの大切にし、それぞれに合った学習を進めていきます。(本田)



よ〜く読んで…できました!

**幼児体育教室** 幼児は前転に取り組んでいます。「1,2のごろん!」掛け声に合わせて転がったら、体を丸めたまますぐに体を起してポーズ。始まりと終わりの場所に目印を置き、視覚的にも分かりやすくしています。初めて前転に挑戦する子どもも多く、みんな一生懸命です。家庭でも布団の上などでぜひ挑戦してみてください。(久留)



「1,2のごろん!」

**コンピュータ教室** 『ハガキデザインキット』を使用して、年賀状作成をしています。「干支」「クール」などキーワード検索して、複数あるテンプレートからお気に入りを選び、お正月や干支の絵、言葉を入力し、色や大きさなどのレイアウトを考えます。毎回、個性豊かな年賀状が作られています。今年度は、宛名入力、印刷も行い、コメントを記入して、お世話になった方々へ投函できるようにしていきます。(高橋)



年賀状作成



【スクールプログラムの様子】

**幼児** クリスマスの製作に取り組んでいます。親子プログラムではクリスマスツリー、年少プログラムではオーナメントを作りました。年中はサンタさんの帽子、年長はトナカイやサンタさんに取り組みました。みんなサンタさんが来るのを楽しみにしながら製作をしています。素敵なクリスマスになるとよいですね。(大菅)

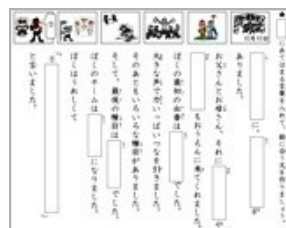


楽しいクリスマス

**2年生** 国語の「しかけカードの作り方」では、説明文の読み取りや、出来事の順番を「まず」「つぎに」「そのつぎに」といった言葉で説明することを学びました。子ども達に、作ったしかけカードを見せたところ、「すごい！飛び出してる！」「これ、作りたい！」といった感想が聞けました。単元の最後には、待望のしかけカード製作にも取り組む予定です。(猪野)



しかけカードの作り方



連続絵を使った文づくり

**4年生** 国語では連続絵を使って文章を作る学習に取り組んでいます。最初は、ポイントとなる言葉を絵の中から探して穴埋め方式での学習ですが、慣れてくると絵だけを見て、自分で考えたストーリーを文章にすることができるようになってきます。

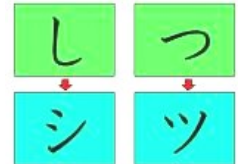
今後、日記や作文の学習に応用、発展させていけると考えています。(藤本)



敬語の学習

**6年生** 国語では敬語の学習に取り組んでいます。文章を丁寧語を用いた表現に書き直したり、『あいさつ』→『ごあいさつ』など、『お』や『ご』を付けて丁寧な言い方に直したりする学習を行っています。習った敬語を活用できるように、国語の授業中以外にも、目上の人には敬語を使って話すように働きかけていきたいと思っています。(大澤)

**1年生** 国語でカタカナの学習をしています。ひらがなに比べてカタカナには似ている文字があったり、書き順によって文字の見え方が変わったりします。間違えないように確認しながら進めています。「先生、シとツ、ソとんは似ているよね。」「ヌとスも似てる。」「ひらがなの『か』とカタカナの『カ』、ひらがなの『り』とカタカナの『リ』も似てる！」子どもたちはカタカナに興味を持ち、わくわくしながら取り組んでいます。(宮下)



ひらがなからカタカナへ

**3年生** 4時間半のスクールでは、給食を食べてから掃除の時間があります。最近は自宅でもなかなか雑巾をかけることが少なくなってきました。週1回ですが、雑巾がけをすることで、食後の運動や教室をきれいにするという一石二鳥の効果が期待できます。教室の床を磨いた後は、廊下に出て端まで一直線！掛け声もよく聞き、「よーい、うどん」では出発しません。「よーい、どん！」で出発！みんなの力で廊下もピカピカになりました。(諸橋)



よーい、どん！



大造じいさんとガン

**5年生** 国語では、物語『大造じいさんとガン』の学習をしています。このお話では「ガン」「タニシ」「つりばり」などあまり子どもたちになじみのない言葉が出てくるので、それぞれの写真を使って「タニシはガンのエサになるんだね」などと確認をしながら進めています。言葉の意味を確実にすることで内容の理解が進み、興味を持って学習に取り組むことができます。(臼井)



面接練習

**中学生** 発表の時間に面接練習を行っています。①ノックをしてから入室、②お辞儀をしながら挨拶、③椅子の横で自己紹介、④促されてから着席、の手順を覚えることを目標としています。練習風景をタブレット端末で撮影し、その場で再生して確認することで、生徒自ら改善点に気づき修正することができました。この練習が本番に活かせることを願っています。(吉田)



コラム 自閉症児の発達研究から (1)

### 自閉症と「こころ」への気づき

「こころ」はどこにあるのでしょうか。それはカップやペンが見えるのと同じようには目に見えません。でも、私たちは「こころ」はあるものと信じて疑いません。「こころ」があると考えたほうが人の行動が理解しやすいからです。雨が降ると“思った”からこの人は傘を持ってきたのだらうとか、あんなことを言うなんて、あの人は私のことが“嫌い”なのかなとか。そのように、人の行動を考えや感情などの心の状態と関係づけて理解できることを心理学では『心の理論』を持っている」と表現します。「心の理論」は人の行動の説明や予測に役立ちます。人の行動を予測できると危険を避けることや利益を得ることができま

すので何かと便利です。そして、自閉症の子どもたちは心の理論を持つのが困難であることが多くの研究から明らかにされてきました。

「こころ」を感じ取る能力。私はそのメカニズムや発達にとっても関心があります。人間の本質に関わる問題だと思ふからです。他人の「こころ」はどうやって知ることができるのか、ということは古くから哲学の課題にもなってきました。心理学の分野での心の理論研究は1970年代に始まりましたが、今日に至るまでホットな研究課題であり続けています。

本センターのご協力のもと、武蔵野東小学校のお子さんと親御さんに、2011年より東京学芸大学で行っている研究にご参加いただいています。心の理論の発達に関す

藤野 博(東京学芸大学教授)

る研究です。まだまだ研究途上なのですが、ひとつ見えてきたことがあります。それは、自閉症の子どもたちは他人の「こころ」への気づきに困難を抱えることは確かなのですが、いつまでもできないままではなく成長していくということです。自閉症の研究はこれまで“できなさ”にばかり目が向けられてきたきらいがあります。私はむしろ成長・発達の可能性のほうを追求していきたいと考えています。調査は夏休みシーズンに行っていますが、毎年参加して下さるお子さんも大勢いらっしゃいます。お子さんたちの成長する様子を追っていけることが何よりの喜びです。



このコラムは4回シリーズでお届けします。



### ファミリーデイ2015

9月25日・26日の日程で、中学生、高校生の親子を対象とした宿泊型ファミリーデイを実施しまし



た。武蔵野東学園が運営する南アルプス・チロル学園を拠点に、ハイキングやクラフト製作、名物のぶどう狩りやジャム作りなど、南アルプスの自然や文化を満喫することができました。



幼児と小学生は、教育センターと東小学校の施設において、ミニ運動会やおもちゃ製作、小学生はハンドベルの演奏体験も楽しみました。

### 武蔵野東教育センター

〒180-0012

武蔵野市緑町2-1-10

電話 0422-53-8585 FAX 0422-53-8595

Email: education-center@musashino-higashi.org

URL: http://www.musashino-higashi.org



### 平成28年度療育プログラムのご案内

平成28年度療育プログラムの一次募集を実施しています。受講希望の方は、申込用紙またはウェブサイトのフォームにて平成27年12月15日(火)までにお申し込みください。それ以降は、空きのあるプログラムのみ二次募集を行います。

詳しい資料を希望の方は、電話かホームページのフォームでご請求ください。ご相談や見学も承っております。